

牧師室から (2023.3.5)

私は毎年受難節頃になると花粉症に苦しむ。今年も灰の水曜日の前日に鼻がムズムズしだした。ところがいつも、なぜか大抵イースターになると症状が収まるようになる。もしかすると心理的なものもあるのかと思ったりもする。花粉症はアレルギー反応であり、これはいわば過剰な免疫反応の一つであるが、この季節による症状の原因が花粉によるものであるとわかったのはそれほど昔ではないようだ。

そこで花粉症に関する本を探していたところ、書店で『花粉症と人類』という本を見つけたので買って読んでみた。著者の小塩海平氏は農学者でありつつ日本キリスト教会東京告白教会の長老でもあることから、聖書との関連についての言及もあって興味を引いた。

「・・・スギ花粉症は、日本という国が、私たち庶民やその周囲の環境を置き去りにして経済成長を追い求めたことに対する警告であるように思われて仕方がない。・・・花粉症という疾病は、単なる健康問題ではなく、現代人のわがままな振る舞いによって環境生態系との間にねじれが生じ、そのきしみやゆがみが私たちの身体反応に変化をもたらし、結果として花粉症という歴史的産物として表出したものと考えざるを得ない。したがって花粉症対策を講じるにあたっては、地球生態系との関係修復を視野に入れた人類史的なタイムスパンが必要となる。」(本文より)

花粉症で苦しむ皆さん、God bless you! (お大事に)

(鈴木淳一牧師)